

2022年3月5日(土)  
日本テスト学会

# テスト・リテラシーの共有に向けて —大学入試改革の紆余曲折を経験して—

国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部教授  
京都大学名誉教授・大学入試センター名誉教授  
元大学入試センター試験・研究統括官(副所長)  
大塚雄作



## ●受賞御礼

・・・それぞれの時々に多くの先生・先輩・同僚・後輩に恵られました！

---

---

- 1971 東京教育大学附属高等学校卒業
- 1976 東京大学理学部物理学科卒業 → 教育心理学科学士入学
- 1982 東京大学大学院教育学研究科教育心理専門課程博士課程単位修得退学
- 1982 大学入試センター 研究部 助手
- 1986 放送（メディア）教育開発センター 研究開発部 助教授・教授（1996）
- 2000 大学評価・学位授与機構 評価研究部 教授
- 2004 京都大学 高等教育研究開発推進センター 教授
- 2007 テスト・スタンダード刊行（9月）
- 2012 京都大学 高等教育研究開発推進センター センター長
- 2014 独立行政法人大学入試センター 試験・研究副統括官（京都大学名誉教授）
- 2015 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官（副所長）
- 2018 定年退職（大学入試センター名誉教授）
- 2020 国際医療福祉大学・大学院 教授・特任教授

# ● 高大接続改革の紆余曲折（Ⅰ）

---

- 2012年8月28日 中央教育審議会への諮問（民主党政権下）  
京都大学松本紘総長はそれに先だって京大入試改革を記者発表  
→ 特色入試に結実
- 2012～2014 中央教育審議会高大接続特別部会  
知識活用力を問うテスト 合教科・合科目型テスト 総合型テスト
- 2013年10月 安倍政権下に教育再生実行会議設置 第四次提言  
共通試験 → 達成度テスト（基礎レベル・発展レベル）の提言
- 2014年12月22日 中央教育審議会答申 高大接続改革答申  
『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について ～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～』  
「学力の3要素」が記載される  
高校基礎学力テスト・大学入学希望者学力評価テスト  
大学入学希望者学力評価テストに記述式問題の導入が提言される

# ● 高大接続改革の紆余曲折（2）

---

- 2016年3月 高大接続システム改革会議最終報告  
高校基礎学力テスト・大学入学希望者学力テスト  
大学入学希望者学力テストに「条件付き記述式」問題導入  
民間英語4技能試験の活用を検討
- 2017年7月 高大接続実施方針  
高校生のための学びの基礎診断・大学入学共通テスト  
大学入学テストの国語と数学Ⅰに「条件付き記述式」問題導入  
民間英語4技能試験の活用を決定 → 「成績提供システム」の構築  
マークシート方式問題の改善（より思考力・判断力・表現力を問う問題へ）
- 2018年度 大学入学共通テストに向けての試行調査実施
- 2019年11月～12月 「成績提供システム」の稼働中止・記述式問題導入の延期
- 2021年7月8日 大学入試の在り方に関する検討会議 提言  
共通テストにおける記述式は断念 個別試験における記述式の充実  
共通テストにおける民間試験活用は断念 個別試験において活用を図る

## ● 高大接続改革で遭遇した課題 (2014~2018)

---

- 『学力の3要素』の測定・評価？
  - 「知識活用力」 → 「思考力・判断力・表現力」
  - 「主体性・多様性・協働性」
- 共通試験への記述式問題の導入？
- 英語4技能検定試験の導入？
- 受験生多様化への対応？
- 高大接続研究とテスト・リテラシーの普及

---

# § 学力の3要素？

# ● 「学力の3要素」の法令的根拠

---

## ■ 「学力の3要素」は学校教育法第三十条第二項から

- 義務教育の目的＝教育基本法第五条第二項：「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。」
- 義務教育の目的を達成するための目標＝学校教育法第二十一条に十号の記述
- 以上の目的・目標を達成するために小学校等の教育は行われる＝学校教育法第三十条第一項
- 学力の3要素条項＝学校教育法第三十条第二項：「前項の場合においては、**生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。**」
- 大学教育については、「第八十三条 大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。  
② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」とあり、第三十条第二項を準用する条項はない。

# ● 「学力の3要素」をどう捉えるか

---

- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」という表現は適切か？
  - 「知識・技能」には、「基礎的な」ものもあれば、高度なものもあるのでは？
  - 「思考力・判断力・表現力」の「他の能力」とは？「判断力」について問題にされることをほとんど見ないが、それは何故か？「思考力」とは？「表現力」とは？
  - 「思考力・判断力・表現力・等」を「育む」ことで何が得られるのか？「主体性・多様性・協働性」を「養う」ことで何が得られるのか？結果的に「習得」されるものは、より高度な「知識・技能」になるのではないか？
  - 「思考力」や「主体性」そのものを測定できるのか？1時間程度の試験時間において測定可能なものは何なのか？
  - 試験問題は、いろいろな場合を検討したり、論理的道筋を辿ったりという思考過程を経ることで解答に至る受験生もいれば、既に知識として定着している受験生にとっては単なる「知識問」のレベルで解ける場合もある。

# ●情報関係基礎 2010年度問題例

## 「思考力や応用力を問う問題」と評価された問題例

### 第3問 (選択問題)

次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 35)

正の整数値を漢数字で表示する手順を考えよう。例えば、表1の漢数字表示欄に示すように値を表示する。

表1 漢数字表示の例

値(算用数字で表記)	漢数字表示
123456789	一億二千三百四十五万六千七百八十九
11023	一万千二十三
5023	五千二十三
3105	三千百五
2345	二千三百四十五
2000	二千
1211	千二百十一
223	二百二十三

問1 次の文章の空欄 **ア** ～ **エ** に入れるのに最も適当なものを、下の解答群のうちから一つずつ選べ。

まず、一万未満の数を漢数字表示することを考えよう。与えられた数の千の位、百の位、十の位、一の位の順に、一桁ずつ処理をする。

5023の百の位のように、数字が0の桁では、**ア**。

1211のように1が含まれる場合、数字が1の桁では、一の位ならば、「一」を表示する。それ以外の位ならば、**イ**。

2345の各桁のように、数字が2以上の場合、一の位ならば、**ウ**。それ以外の位ならば、**エ**。

**ア** ～ **エ** の解答群

- ① 何も表示しない
- ② 「一」を表示する
- ③ 「千」を表示する
- ④ その桁の数字のみを漢字で表示する
- ⑤ その桁の数字と位を表す文字を漢字で表示する
- ⑥ その桁の位を表す文字のみを漢字で表示する
- ⑦ 前の桁と同じ数字を漢字で表示する

# ●情報関係基礎 2010年度問題例 (つづき)

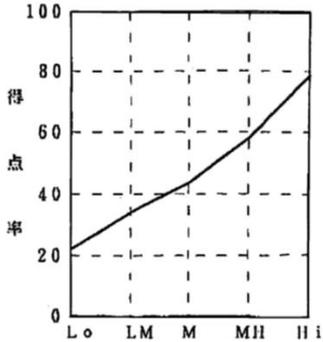
問 2 次の文章を読み、図中の空欄 **オ** ~ **コ** に入れるのに最も適当なものを、次ページのそれぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。

図 1 のように、配列 **Suji** と配列 **KuraiMoji** に、漢数字を格納しておく。  
なお **Suji[1]** と **KuraiMoji[1]** には、空文字を格納しておく。

- (01) **Suji[1]** ← 「一」、 **Suji[2]** ← 「二」、 **Suji[3]** ← 「三」  
 (02) **Suji[4]** ← 「四」、 **Suji[5]** ← 「五」、 **Suji[6]** ← 「六」  
 (03) **Suji[7]** ← 「七」、 **Suji[8]** ← 「八」、 **Suji[9]** ← 「九」  
 (04) **KuraiMoji[4]** ← 「千」、 **KuraiMoji[3]** ← 「百」  
 (05) **KuraiMoji[2]** ← 「十」、 **KuraiMoji[1]** ← 「」

図 1 文字の配列を初期化する手続き

第3問  
配点35 平均 47.34%



◆第3問 解答者数 348人 (606人中)

問	正答	得点率	無解答率	得点相関
問 1				
ア	0	85.06	1.72	0.38
イ	5	80.75	1.72	0.44
ウ	3	85.92	2.30	0.38
エ	4	85.92	2.01	0.50
問 2				
オ	3	31.03	3.45	0.21
カ	0	28.74	4.02	0.24
キ	1	49.14	4.31	0.52
ク	5	41.95	4.60	0.56
ケコ	3 5	33.33	6.32	0.55

一万未満の数 **n** を漢数字で表示する手続きを図 2 に示す。ただし、二つの整数  $a \geq 0$ ,  $b > 0$  に対し、 $a \div b$  は  $a$  を  $b$  で割った商の整数部分を、 $a \% b$  は  $a$  を  $b$  で割った余りを、それぞれ計算する。

- (01) **kurai** ← 1000  
 (02) **keta** を 4 から 1 まで 1 ずつ減らしながら、  
 (03) **d** ←  $n \div \text{kurai}$   
 (04) もし **d** ≠ 0 ならば  
 (05) もし **オ** ならば  
 (06) **カ** を表示する  
 (07) を実行し、そうでなければ  
 (08) **キ** を表示する  
 (09) **ク** を表示する  
 (10) を実行する  
 (11) を実行する  
 (12) **n** ← **ケ** % **コ**  
 (13) **kurai** ←  $\text{kurai} \div 10$   
 (14) を繰り返す

**オ** の解答群

① <b>keta</b> ≠ 1	⑤ <b>d</b> ≥ 2 かつ <b>keta</b> = 1
② <b>d</b> = 1 かつ <b>keta</b> ≠ 1	⑥ <b>d</b> = 1 かつ <b>keta</b> = 1
③ <b>d</b> ≥ 2 かつ <b>keta</b> ≠ 1	⑦ <b>d</b> ≥ 2 かつ <b>keta</b> = 1

**カ** ~ **ク** の解答群

① 「一」	④ <b>Suji</b> [ <b>d</b> ]	⑦ <b>KuraiMoji</b> [ <b>d</b> ]
② 「十」	⑤ <b>Suji</b> [ <b>keta</b> ]	⑧ <b>KuraiMoji</b> [ <b>keta</b> ]
③ 「百」	⑥ <b>Suji</b> [ <b>n</b> ]	⑨ <b>KuraiMoji</b> [ <b>n</b> ]
④ 「千」	⑦ <b>Suji</b> [ <b>kurai</b> ]	⑩ <b>KuraiMoji</b> [ <b>kurai</b> ]

**ケ** · **コ** の解答群

① <b>d</b>	④ 10	⑦ <b>keta</b>
② <b>n</b>	⑤ 1000	⑧ <b>kurai</b>

図 2 一万未満の数 **n** を漢数字表示する手続き

# ● 正答率が極端に低くなった世界史Aの問題 (2017)

## = 難しすぎる問題は識別力が低くなる

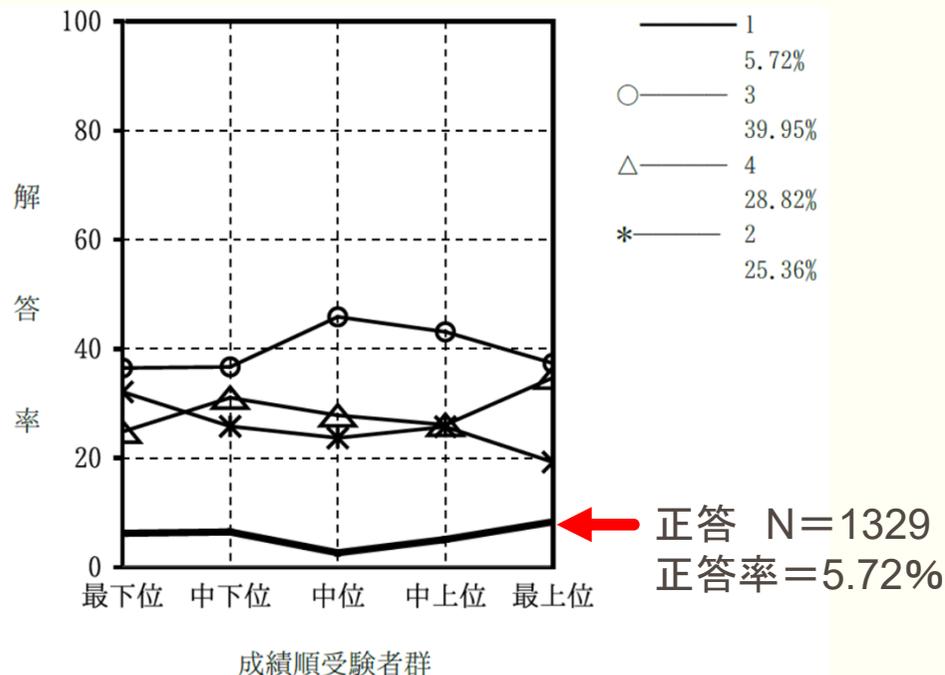
平成29年度大学入試センター試験・本試験

世界史A

第2問 B 江戸時代の日本では、諸外国との直接の交流は限定されていた。しかし、通商を許されていたオランダを通じて、日本にはヨーロッパの状況に関する④様々な情報が海を越えて伝わってきていた。丹波福知山藩の藩主であった朽木昌綱

問 5 下線部④に関連して、次の年表に示した a ~ d の時期のうち、海を越えて即座に情報を伝えることを可能にした海底電信ケーブル(海底ケーブル)が、世界で初めて敷設された時期として最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。 14

- |          |                              |
|----------|------------------------------|
| <b>a</b> | 1871年 日本で郵便制度が成立した           |
| <b>b</b> | 1906年 アメリカ合衆国で世界初のラジオ放送が行われた |
| <b>c</b> | 1935年 ドイツでテレビ放送が始まった         |
| <b>d</b> |                              |



海底ケーブル：1850年にドーバー海峡に英仏を結んで敷設。日本でも、郵便制度が成立した1871年に、長崎と上海などの間に敷設。教科書には大きくは扱われておらず、常識的にはもっと新しいことと思われるが、意外に古い出来事 → 正答率を低くする

## ● 当て推量をどう考えるのか

---

- 「選択枝数をできる限り多くしたいという心理の裏には、まぐれ当たりによる正答を少なくしたいという気持ちが働いている…」
  - 問題数を増やす = 総得点の信頼性が確保されていればよい
  - 難易度の高い問題は 当て推量の解答と区別が難しくなり 総得点の信頼性が下がる
- 「選択枝の数が少なすぎるのもよくないし、多ければよいというものでもない…枝の数を多くしようとする、それだけ設問を用意するのが難しくなり、その結果、そこで狙っている事柄とは本質的に無関係な選択枝を入れたりすることになる…」
- 「選択枝の本来のねらいは、ある一つの次元（枠組み）に関して拮抗するいくつかの比較材料を判断させて最適なものを選ばせようとするもの…判断次元に対して別の次元に属する“まよわし”を混入させると、解答者は観点を絞ることができず、いたずらに思考を混乱させて、本当にみたいと思っていた知識や能力が必ずしも表出されずに終わってしまう危険  
→ 妥当性が低下する原因」
- 「択一式テストの選択枝の個数は4つか5つが最も実用的で、また理論的にも十分である…（3つが最適であるという研究も）…実質選択枝数が5を超えることはあまりない…」  
(池田央「テストの科学」4章 客観テストの設計・p.85~87より)」

---

---

## § 大規模共通試験への記述式問題の導入？



# ● 解答類型

★「地上のどこに向かって伸ばしていくのか」「乗るための費用はいくらなのか」という解答は、「なぜ」「どのような(に)」「どのくらい」という言葉が使われていないことから、意味的にはそれらの言葉の趣旨が含まれていて、当然の疑問と考えられる解答が、誤答とされている。

問題番号	解答類型	正答
<p>② 三</p>	<p>(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。</p> <p>① アに、【雑誌の記事】を読んで「宇宙エレベーター」について疑問に思ったことを一つ書いている。</p> <p>② アに、「なぜ」、「どのような(に)」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で書いている。</p> <p>③ イに、必要な本の探し方を二つ書いている。</p> <hr/> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア 宇宙エレベーターは、なぜ長い期間にわたって繰り返し使うことが可能なのか。(37字)</li> <li>イ 図書の分類に従って、自然科学に関係する本が置いてある棚に行く。</li> <li>イ 図書検索用のコンピュータに「宇宙エレベーター」と入力して検索する。</li> <li>・ア 宇宙エレベーターの実現には、どのような課題があるのか。(28字)</li> </ul>	
	<p>3 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの 誤答</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ア 宇宙エレベーターのケーブルは、<u>地上のどこに向かって伸ばしていく</u>のか。(35字)</li> <li>イ (略)</li> <li>・ア 宇宙エレベーターに乗るための費用は<u>幾らなのか</u>。(24字)</li> <li>イ (略)</li> </ul> <p>* アに「なぜ」、「どのような(に)」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って書いていない。</p>	

# ●教育文脈において共有される論点と記述式問題

ex. 2017年6月15日実施のフランス・バカロレア哲学試験

バカロレア資格とはフランスの大学入試に相当する試験。毎年6月中旬からおよそ一週間にわたって行われる。中でも初日の哲学試験は4時間にわたって一つの命題と格闘することを要求される。

(1) 知るためには観察するだけで足りるか。

(Suffit-il d'observer pour connaître ?)

(2) 権利を全て実行することは正当か。

(Tout ce que j'ai le droit de faire est-il juste ?)

(<http://societas.blog.jp/1066467716> 参照)

→ 解答には無限の多様性と広範囲のレベルが想定される 採点困難？  
記述の論点は教育のプロセスにおいて共有されているべき  
フランスの初中等教育における「ディセルタション」教育の背景  
教員免許試験にもこの種の問題が含まれる → 採点者の権威

# ●採点者信頼性の問題

## ■記述式採点は「採点者信頼性」を高く維持することが難しい

- 一人の採点者内でも採点基準は変動しがち
- 採点者間の採点結果の変動はかなり大きい

(右図参照→)

Cf. 池田 央 (1992). 『テストの科学』 日本文化科学社  
池田央先生の『教育測定』の授業 (約45年前)  
「いもほり」の作文評定の経験

## ■海外の記述式を採用している試験では、アピール・センターを設置して、記述式問題の採点に関わるクレームを受け付けている場合もある

イギリス：有料 (約5000円程度?) 認められれば返金

フランス：転記ミスなどの物理的なミスのみ受付

教師の採点に対する絶対的信頼感

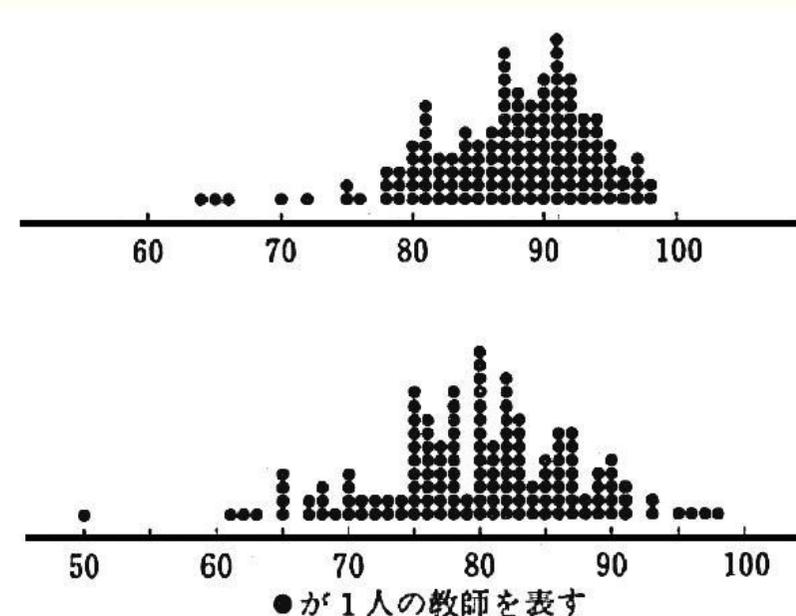


図 1.1 142人の教師が英語の同一  
答案に与えた評点の分布

(出所) 橋本重治『新・教育評価法総説(上)』金子書房、  
1976年。

# ●受検者のレベルによって異なる採点基準

ex. 「テスト得点の信頼性と妥当性について論じなさい」の採点基準案 (ルーブリック案)

A = 信頼性・妥当性の意味がそれぞれ正確に把握されており、その検証方法についても適切に触れている。また、信頼性と妥当性の関係性 (信頼性が高くないと高い妥当性は得られない・信頼性を高めることによって妥当性が低くなる場合があるなど) が的確に論じられている。

B = 信頼性・妥当性の意味とその検証方法については把握しているが、その両者の関係性については十分に論じられていない。あるいは、両者の関係性については触れているが、検証方法については触れていない。

C = 信頼性・妥当性の意味については正確に把握されているが、その検証法、及び、両者の関係性については触れていない。

D = 信頼性・妥当性について両方の意味を正確に把握しているとはみなされない。

## ◆問題の難易度を下げるとすれば・・・

A = 信頼性と妥当性の両方の意味が正確に把握されている。

B = 信頼性と妥当性の一方の意味は正確に把握されている。もしくは、やや曖昧さがある。

C = 信頼性と妥当性の意味をある程度把握している可能性はあるが、十分に把握していない可能性も窺える。

D = 両方の語の意味がほとんど把握されていない。

→ rubricによる評定で、信頼性は高められるが、妥当性に関しては保証されない。

---

## § 英語民間試験活用を巡って

「英語力評価及び入学者選抜における  
英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」  
で何を発言してきたか

## ● 「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」の議事録から（大塚の発言）

2015.9.29-1

- アドミッション・ポリシーに応じた個別試験の在り方というのが、これからの多様化の時代、非常に重要……個別入試においてできることは何か、それに先立つ共通試験がどういう役割を担うのかということを考えていく必要がある
- 共通テストは非常に幅広い層を扱わなければいけない……共通テストはできるだけ軽量化……それぞれの大学においてアドミッション・ポリシーに即して（民間試験）を活用していく……共通テストで4技能の試験……受験料にはね返っていく……多様な受験生のすべてのレベルに対して一律に4技能の試験を導入することが得策なのか……新テストでは、軽量化するという意味で筆記試験だけにすることもあり得る……ウォッシュバックということは重要で、高校教育にどのような影響を及ぼすかということも慎重に見ていく必要
- 選抜試験にスピーキングやライティング試験を入れるときに問題になるのが採点……都立高校などで採点ミスということが社会的にも話題……選抜試験で、パフォーマンスを評価するというのが、どれだけ「公正性」ということを担保できるか……これはなかなか難しい……調査では許されることが選抜試験では許されない、選抜試験ならではのそういった特性もおさえておく必要

# ●協議会での大塚の発言（つづき）

2015.9.29-2

- 今の大学入学者選抜のスケジュールを前提にしたとき，共通試験に、4技能すべてを導入するということは不可能.....コンピュータ導入.....わずかな（不具合の）出現率であっても，人数的には千オーダーに.....一斉に50万人を対象とする形ではCBT導入に踏み切れない.....入試制度全体を変えていく必要
- イギリスなどでは，1年ぐらいかけて選抜.....日数をかけることがいいかどうかは，高校教育への影響などを考えると，日本の場合にいいことかどうかは微妙だが.....少なくともスケジュール的に余裕を持たせないと，記述式だけでも導入は難しい.....イギリスの場合，The Universities and Colleges Admissions Service (UCAS) という組織もヒントになる
- アドミッション・ポリシーと試験との対応関係をどう作っていくのかということも難しい.....各大学でアドミッション・ポリシーに応じた試験を作っていくのは大変.....アドミッション・ポリシーについてはこれから少しずつ具体化されて提示されていく.....英語の資格・検定試験に関わる各試験団体から，それぞれの試験の特徴に応じて，こういうアドミッション・ポリシーには自分のところは向いているというような発信もしていただけたらいいのではないかと

# ●協議会での大塚の発言・・・最後の文科省委員

2016.3.25

- 50万人に4技能試験を実施，短期間に採点は.....選抜試験というハイスティクスな試験.....現行のセンター試験のスケジュール等を前提とすると.....全く不可能.....導入の実現のためには，資格試験的な形をとれるかどうかが鍵
- 民間の資格・検定試験の活用の促進.....「比較的安い受験料であっても，それを出せない家庭がある.....格差が広がるばかり」という訴え.....受験料価格の調査.....平均値（3000円）のみならず.....データのばらつきの中にどういう理由が潜んでいるのかも的確につかんでおく必要
- ウォッシュバック効果.....教育に及ぼすのと同時に，高校生自身にも及ぶ.....英語の苦手意識とか，英語が嫌いという部分が助長される可能性
- 何のために英語を活用するか.....各民間の資格・検定試験にも目的の違い.....大学の英語もEnglish for Academic Purpose, General Purposeなど，目的を分けて捉える考え方.....検定試験等の活用のあり方は個々の大学のアドミッション・ポリシーに応じて違ってくる
- 4技能試験の導入は，コスト，労力が多大.....国からは継続的に予算を付けるのも難しい時代.....産業界などから何らかの形の支援が必要

# ● 民間試験活用に関わる個人的見解

---

---

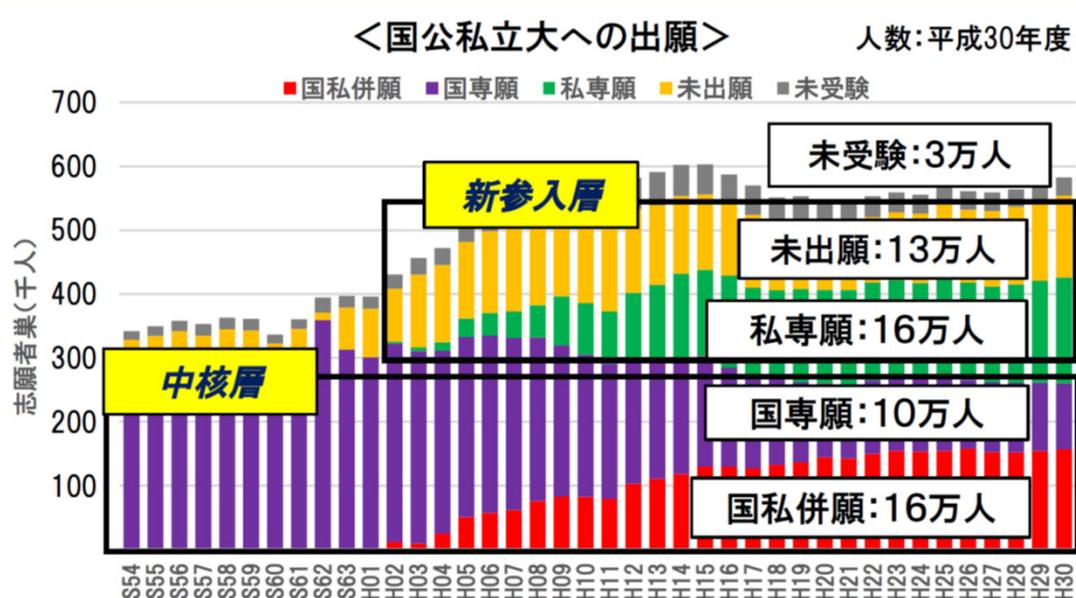
- 共通試験の枠組での民間試験の活用は廃止すべき
- 共通試験の英語は、当面、筆記試験で4技能の力を反映する試験とする（この方針はセンター試験の方針）
- 民間試験を活用することを促進するために、リスニング試験は中止する → 共通試験の軽量化
- 個別試験において、アドミッションポリシーに応じて、民間試験の結果を活用することは促進する
- 成績提供システムは、個別試験で民間試験を利用している大学の便宜のために稼働させる → 民間試験の情報収集のため

---

## § 受験生の多様化を巡って

# ● 受験生多様化の動向

- ✓ 現役受験生に漸増する センター試験成績未利用者 = 試験成績を大学出願に利用していない → 成績はかなり低い
- ✓ 私大専願受験生も1/4程度 = 成績は高くない(ボリュームゾーン)
- ✓ ボリュームゾーン層の受験生にとってセンター試験は適切な検査とは言えない



鈴木規夫 (2021). センター試験志願者の受験行動と学力特性 入学者選抜研究に関する調査室報告書7 大学入試センター・シンポジウム2020 「センター試験」をふり返る, 41-58.

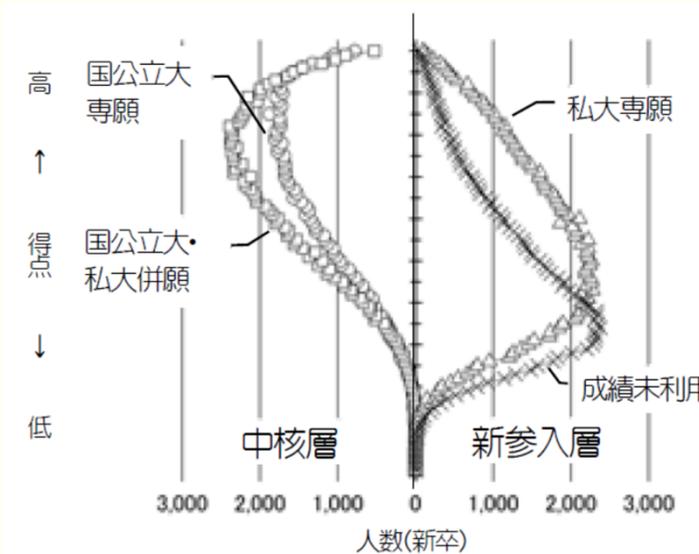
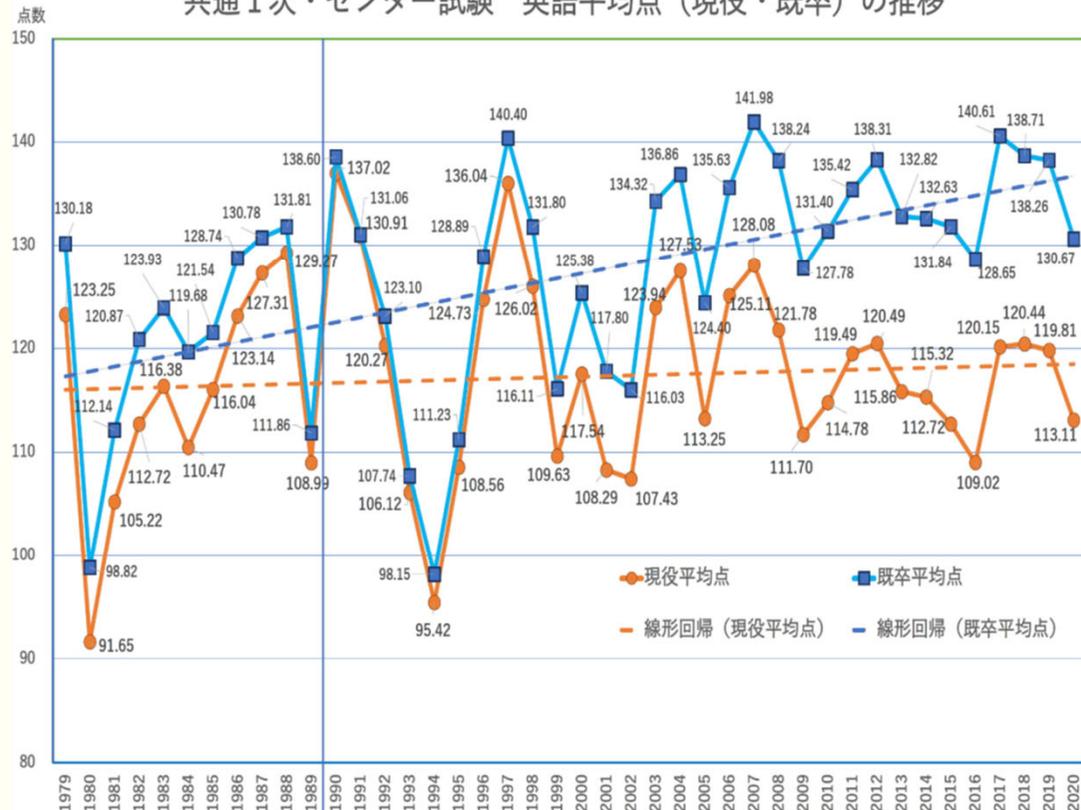


図4. 「英語筆記」の出願類型別の学力分布の例

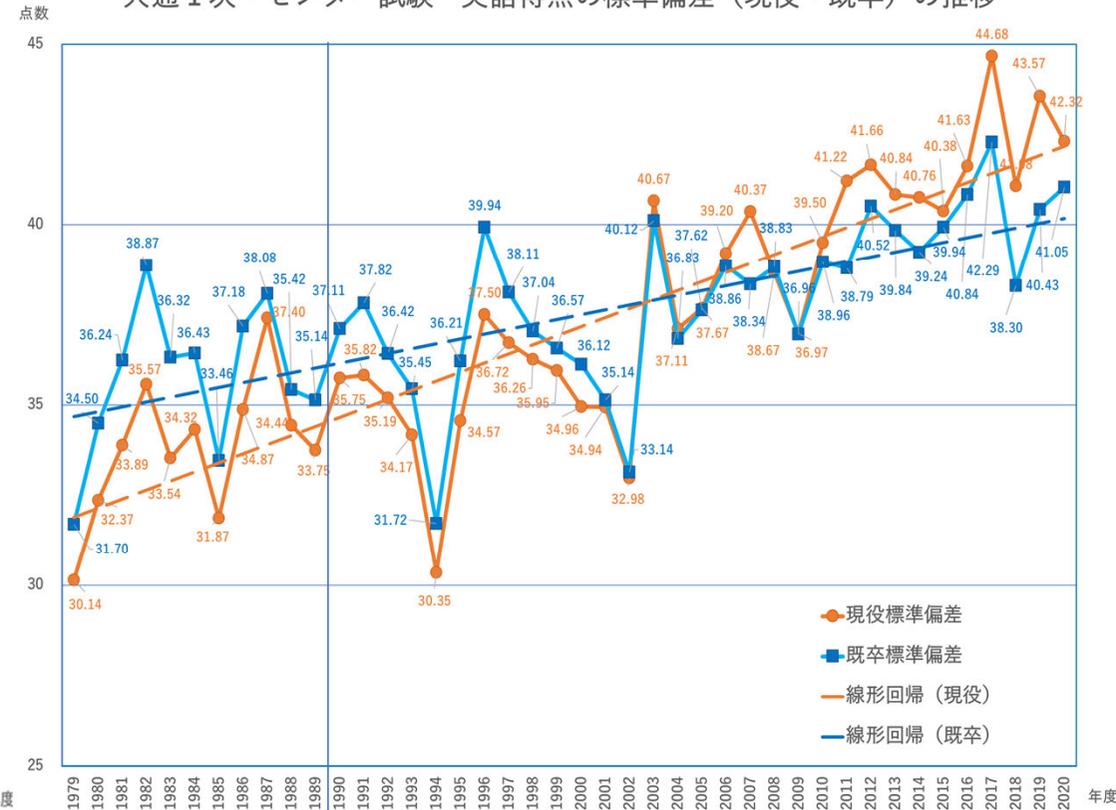
内田照久・中村裕行・橋本貴充・鈴木規夫・荒井克弘 (2016). センター試験の受験目的の多様化と学力分布の層別特性 大学入試センター紀要, No.45.

# ●センター試験英語得点推移の現役・既卒者比較

共通1次・センター試験 英語平均点（現役・既卒）の推移



共通1次・センター試験 英語得点の標準偏差（現役・既卒）の推移



既卒者と現役との平均点の差が広がっている。  
得点の散らばりは増大傾向にあり、現役の散らばり方が特に大きくなっている。

# ●複数バージョン提供の可能性

---

## ■受験生の多様化・ユニバーサル化への対応……共通テストの複数化

受験生の受験大学はレベル差のある複数 = ダイヤモンド受験

→ 受験生は受験する共通テストは一つに絞りたい

→ 複数のレベルの試験を用意し

共通問題を含めて等化得点を求め

その得点と共にレベル差のある複数大学に出願できるシステムは？

## ■共通問題をアンカーとする等化の可能性についての研究

2015年の理科の得点調整はしなくてもよかったのではないか？

移行措置の旧課程物理と新課程物理の共通問題をアンカーに旧課程物理の得点を新課程物理の得点に等化して新課程生物の得点と比較するとどうだったのか？

公民の倫理、政経、倫理・政経の共通問題をアンカーとする等化はどうか？

問題の公開が前提であってもこの種の検討は進めておくといよいのでは？

=== 大学入試センター内の研究会で研究開発部に訴えたこと

---

## § テスト・リテラシーの共有に向けて

# ●テストについての理解の課題

---

## ■しばしば遭遇するテスト・リテラシーに関わる課題

- ▶テスト得点には誤差が含まれると考えられていない風潮が一部にあり、得点の高低が過度に重視される
- ▶テスト問題の領域代表性を考慮することなく、結果が過剰に一般化される
- ▶多枝選択式テストでは学力は正しく測れず、記述式テストなら「真の学力」が測れると信じられている = 表面的妥当性が優先される
- ▶専門家が採点すれば間違いのない点数が得られると信じられている
- ▶選抜テストと資格テスト・調査などとの違いが明確でない
  - ✓ 選抜試験：個人差を識別する → 個人の尺度得点の信頼性  
= 十分な項目数の準備等が必要
  - ✓ 調査：集団の特徴を知る → 集団における得点の信頼性  
= 偏りのない十分な標本サイズの確保
- ▶形成的評価で有用な手法が総括的評価でも有効に機能すると思われる

# ●テスト・リテラシー普及の課題

## ■ 社会へのテスト・リテラシー普及啓発の必要

- ▶ 放送大学生涯学習支援番組  
「大学入試をどう考えるのか」  
大学入試センター研究開発部



BS231

9/7(月) 18:45~

BSキャンパスex特集 大学入試をどう考えるのか 第1回 高大接続とは何か

岩永 雅也(放送大学副学長)



BS231

9/8(火) 18:45~

BSキャンパスex特集 大学入試をどう考えるのか 第2回 諸外国の例から高大接続を考える

岩永 雅也(放送大学副学長)



BS231

9/9(水) 18:45~

BSキャンパスex特集 大学入試をどう考えるのか 第3回 多面的・総合的評価とは何か？

岩永 雅也(放送大学副学長)



BS231

9/10(木) 18:45~

BSキャンパスex特集 大学入試をどう考えるのか 第4回 高大接続における多面的・総合的評価の実際

岩永 雅也(放送大学副学長)

## ■ 大学入試人材の養成

- ▶ 九州大学 アドミッション・オフィサー養成プログラム
- ▶ 大阪大学 阪大アドミッション・オフィサー育成プログラム
- ▶ 大学入試センター アドミッションリーダー研修

# ●大学入試研究の課題

---

## ■ 妥当性研究の広がりに向けて妥当性研究は基本的に難しい

せめて、今の時代だからこそ、データの連携を図って、基準関連妥当性の検証の可能性を増すための体制作りが望まれる

入試で測るべき能力とは何かに関わる心理学的アプローチ

## ■ 時代変化に対応するための準備

### ➤ コロナ禍における複数受験機会への対応

問題さえ複数セットできればよいというものではない

複数セット間の等化について社会が納得できる根拠を示す必要

### ➤ コンピュータメディアの学校教育への浸透への対応

入試メディアの革新（CBT：Computer-Based Testing）への対応

今の試験をコンピュータに載せるにとどまらない問題の工夫の必要

## ■ テスト研究者の養成に向けて

### ➤ 大学院設置の可能性を探る

### ➤ テスト学会の更なる充実と会員増への期待

ご清聴  
ありがとう  
ございます



了